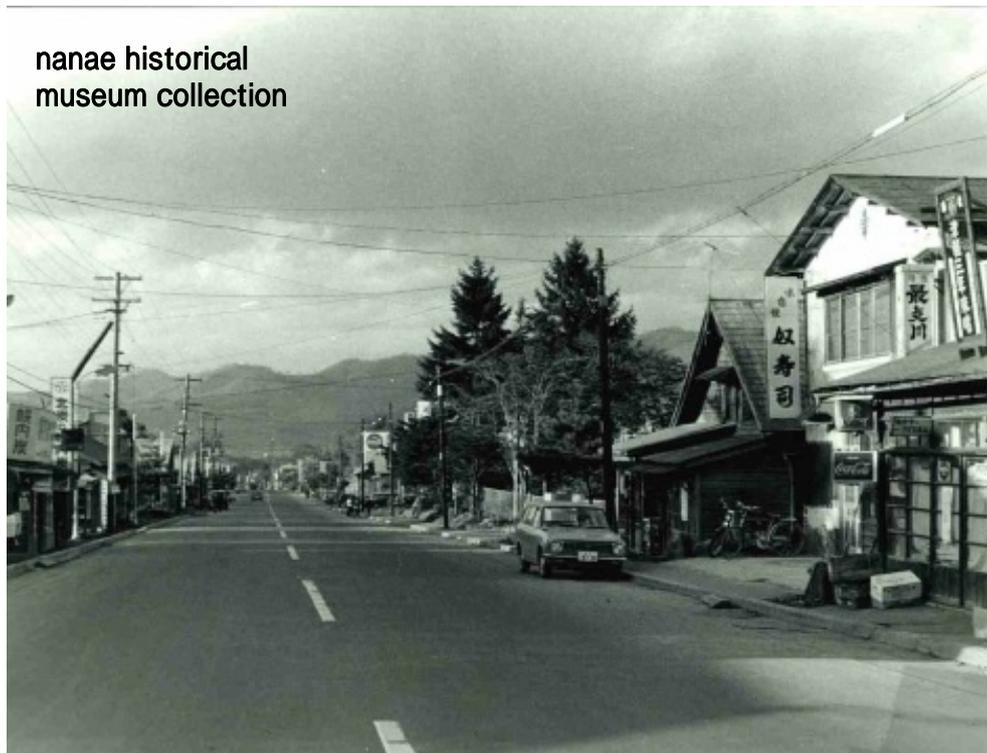


Richart ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第119号

nanae historical
museum collection



ななえ古写真物語

VOL. 119

かわる街並み

年代推定のむずかしさ

昭和40年頃か？

本町地区

写真は、七飯本町にある交番のあたりから仁山方面へ向かって撮影されたものである。年代は、定かではないのだが、昭和40年頃か、それ以前ではないかと想像している。理由は、路上駐車された車のサイドミラーがボンネット側に取り付けられていることや、あたりの店構えなどから、漠然と予想しているだけである。

こういった、古すぎず、新しすぎずという写真の年代を求めるのには、毎回苦労する。今も残る寿司屋の存在から、場所は特定できる。手前となりの食品売り場の看板から、何かヒントになるものはないかと目を光らせるが、「津軽三年味噌」やら「コカ・コーラ」など、これといって決定的なものが見当たらない。それでは、奥側となりの建物はなんだろう？ 店構えや軒下に積まれたビールケースの存在から、飲食店らしいなと推理する（実際、食事処だったようだ）。寿司屋を基点に点から線へと注意を広げ、面へとつなげる。例えば、目の前の国道5号は明治5年からあるが、自動車が映っているので、そんなに古い時代ではない。また、舗装化した道から、少なくとも昭和36年以降（国道の舗装化完了は昭和36年）であることが、まるで、謎を推理していく楽しさはある。

向かい側に立ち並ぶ軒の多さに、今との違いを感じつつ、さらなる手がかりを探すと、「幌内炭」の看板があることに気付く。燃料関係の店であるが、石炭から石油への移行期であることを考慮すると、ちょっと情報不足である。というように、やはりどこかでまた行き詰まってしまう。

そういう時に、役立つのが住宅地図である。当館で最も古いのは昭和59年のゼンリンの住宅地図である。30～40年代のものがあれば、予想時期をさらに限定できそうなのだが、仕方がない。一応、写真の場所に相当するページを開いてみると、寿司屋の隣に商店と食事処、そして向いには石油販売店が描かれている。この時には、すでに石炭から石油販売へ移行したのだろう。また、石油店の隣に助産所があったことや、園芸店もあったことを知った。こういった住宅地図によって、今との違いを見出せることには変わらない。

意外に思われるかもしれないが、当館では、古写真と同様に、地図、とりわけ住宅地図も集めている。町の変遷を調べるのに有効だからである。もし、ご家庭で眠っている昭和中頃の住宅地図をお持ちの方には、ご一報願いたい。

12月の予定

11日 友の会のご依頼により、ギャラリートークを行いました。『特別展 ななえの農業史』に展示されている資料をご覧いただき、質問を受けながら、解説をしました。町内に住んでいながら、意外に知らない農業史の中でも、七重官園の役割、農具の近代化の変遷、今も受け継がれるリンゴ栽培の歴史など、それぞれに関係する文書や農具、古写真を通して、より理解が深まれば幸いです。歴史館では、展示されている資料の他にも、出番を待つものが多いです。過去と現在を結ぶ資料が人と人を繋ぐ役割を果たしてくれています。



20日 ジュニア探検クラブで制作した土偶の野焼きを行いました。心配していたおりの雨まじりの天候のなか、土中の水分を飛ばす作業からスタート。パチパチと火が爆ぜる音、空に向かう煙、そんな異空間を感じ、目の前の熱さに耐えながら、じっと焼けるのを待ちます。火の温度がなかなか上がらなかつたり、雨で火が消えそうになったり、苦労もありつつの野焼きでしたが、町民文化祭で無事に展示することができました。



28・29日 町民文化祭の第2会場として、歴史館はたくさんの方で賑わいを見せました。1日目は、ジュニア探検クラブが参加し、せんべい焼きやゴム鉄砲、謄写版など、普段はあまり目にすることがない道具を使って体験したり、郷土カルタでは、取り札を前にいざ勝負！前傾姿勢で耳を傾け、真剣な表情の子供たち、そこには、昔と変わらない姿がありました。また、素敵な配慮で行った屋外での「紙芝居」、古い自転車を使い、小気味いい声が青空に響いていました。少し前の日本の風景を感じられた2日間でした。



1	金
2	土
3	日
4	月
5	火
6	水 夜の博物館
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月
19	火
20	水
21	木
22	金
23	土 ジュニア探検クラブ
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日 年末年始休館日

12月31日～1月5日は休館です。

不思議な金魚草

七重官園でも栽培されていた金魚草。花の筒の部分を押さえてたり放したりすると、口をパクパクします。



編集後記 ~tawagoto~

雪が降った。まだ、アサガオの種を取りきってないのを気にしている。気付くとマイナス気温となる夜も増えてきた。息の白さを感じる中、日差しのあたるところで、鮮やかな赤に体を染めたトンボが、体をピンと伸ばしているのを見つけた。秋から冬への狭間の季節。あと少しの命を謳歌している小さなものたちは、とても意地らしく美しい。その姿が見えなくなる頃、あたりは白の世界となると、首もとのマフラーがつぶやいた。（やまだひさし）

~ピチャリ~
Pichari

第119号

平成29年11月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp